

報告事項 3

平成27年度及び平成28年度愛知県生徒指導推進協議会の報告について

このことについて、別紙資料に基づき報告します。

平成29年3月27日

義務教育課

学校と家庭とのよりよい協働によって児童生徒は育つ

学校と家庭とのよりよい協働を進めることは、互いの良さや役割の理解を深め、児童生徒相互の良好な人間関係づくりを後押しし、問題行動等の未然防止につながります。

【東三河地区の小学校における実践】

Plan

心豊かで思いやりのある子の育成

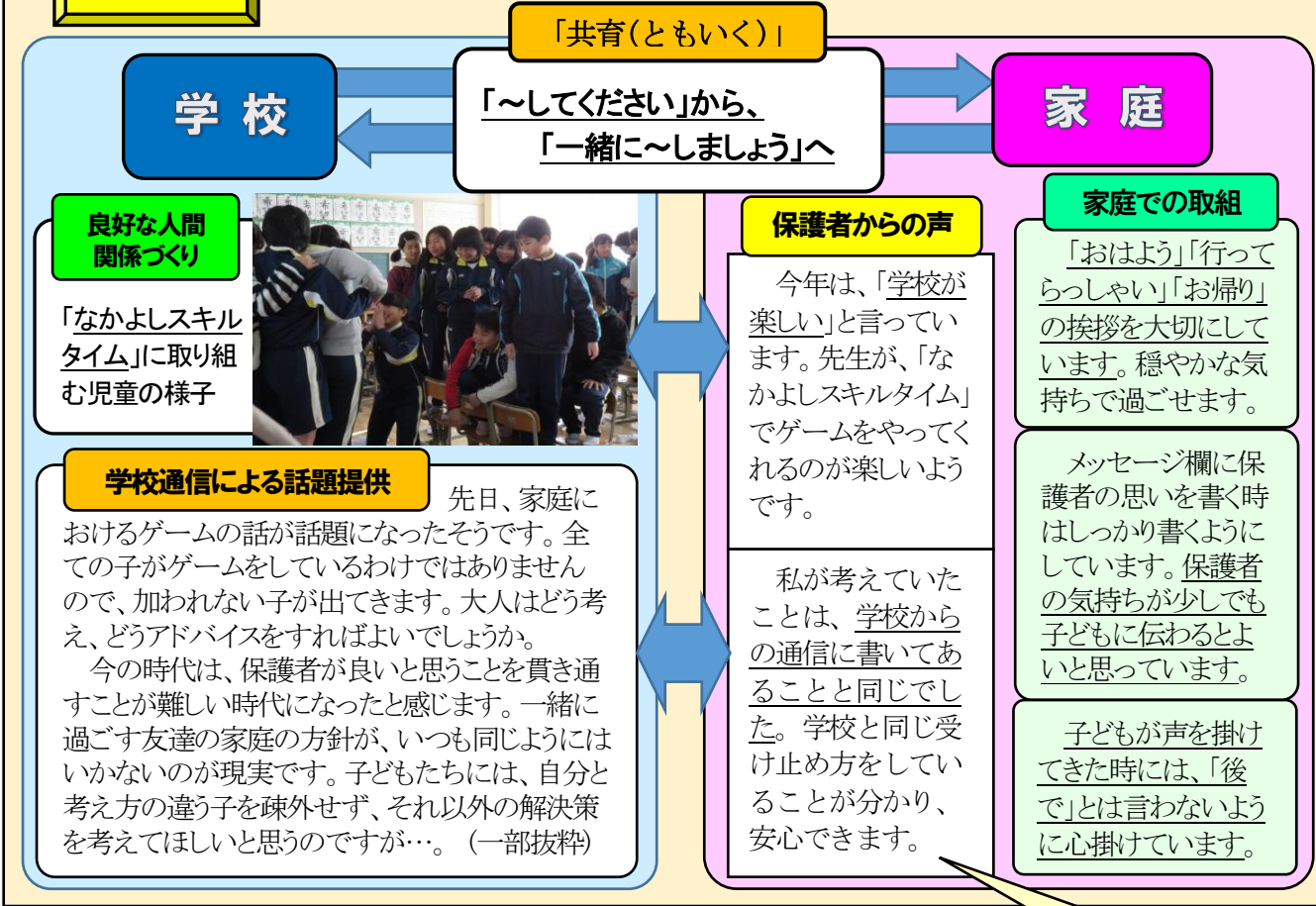
* 心のつながりを大切にしたい温かい安らぎのある学級・仲間づくりを目指す。

【共育(ともいく)】 子どもたちの「よりよく生きよう」とする思いを受け止め、「共に育ち合う」という姿勢で成長を支えていく。

目指す子ども像や生徒指導の重点等を、学校通信やWebページ等で保護者に伝えています。

全員達成「あはは」の実践(基本的な生活習慣を当たり前にする)
 「あ」…いつでもどこでも誰にでも「あ」いさつ「自分から」「地域の人へ」
 「は」…靴箱とトイレの「は」きものそろえ
 「は」…名前を呼ばれたら「はい」と返事

Do



Check

- ・全教職員による取組の振り返り
- ・保護者の声から、取組への理解の深まりについて検証

Act

- ・進んで仲間と関わり、協力して活動できる児童生徒の育成
- ・保護者に協力してほしいことをより具体的に提示
- ・子育てについて保護者と共に考える機会の設定

子どもの様子や保護者に考えてほしい話題を伝え、情報共有の充実を図っています。

生徒指導リーフ No.3

問題行動等の未然防止に向けた学校と家庭との協働の在り方 ～情報共有と行動連携による取組を通して～

いじめや暴力行為、様々なきっかけによる不登校等、児童生徒の問題行動等を解決するためには、早期発見・早期対応に努めるだけでなく、全ての児童生徒の規範意識や自己有用感等を育み、仲間とよりよい人間関係を構築できる力を育成する未然防止の取組が重要になってきています。そのためには、児童生徒の生活の場である学校と家庭が情報を共有し、信頼関係を築き、児童生徒の成長を協力して支援する体制を整えることが必要だと考えます。児童生徒の問題行動等の未然防止に向けた学校と家庭との協働の在り方を、今一度見直してみましょう。



「未然防止」には、教育的予防の視点が大切です！

【参考】 国立教育政策研究所作成
 生徒指導リーフ
 Leaf. 5「教育的予防」と「治療的予防」より

教育的予防	未然防止	全ての児童生徒を対象に、日頃から集団生活の中で規範意識や自己有用感等を醸成し、よりよい人間関係を構築していく力を育成していくこと。
治療的予防	早期発見 早期対応	該当児童生徒を対象に、いじめや不登校の兆候を早期に発見し、相談や解消に向けた支援等の対策を行い、重症化を防ぐこと。
	再発防止	該当児童生徒を対象に、問題発生の過程の振り返りと立ち直り支援等を実施し、再発防止に向けた働き掛けを行うこと。

☆「未然防止」のために、学校は！

- 児童生徒が仲間と関わる楽しさや思いやりの気持ちを伝え合える環境や、悩みを共有し合える集団をつくっていきましょう。
- 児童生徒が学校生活を落ち着いて過ごすための話合い活動や体験活動を温かく見守り、支援していきましょう。

☆ 学校と家庭との協働による取組を！

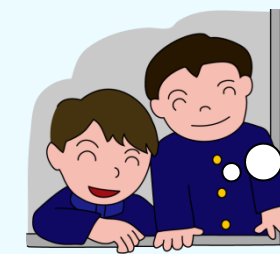
- 家庭ごとに、教育に対する保護者の考え方は様々です。家庭環境は、児童生徒の成長に大きな影響を与えることから、家庭の理解を得ることが大切です。積極的な話合いを通じて、信頼・協力関係を構築していきましょう。
- よりよい協働のポイントは、情報共有と行動連携です。PDCAサイクルによる計画的な協働を進め、問題行動等の未然防止に向けた取組を推進しましょう。



仲間とよりよい人間関係を構築できる児童生徒

児童生徒の規範意識・自己有用感等の醸成

問題行動等の未然防止に向けてPDCAサイクルによる学校と家庭との協働の充実を図りましょう！



学校でも家庭でも、自分のことを見守ってくれることが分かると、安心できるね。

計画

◇ 児童生徒の活動のあらゆる機会を活用し、未然防止に向けた情報共有・行動連携による取組を計画的に設定しましょう！

- 児童生徒の成長にどのような成果が期待できるか、見直しをもって双方からの働きかけを考える。
- 効果的な取組ができる機会や方法について保護者と話し合い、計画的に設定する。



取組の工夫例

- * 教育方針や取組のねらいの共有……年度当初の懇談会等で、いじめ防止基本方針や生徒指導方針を示し、具体的な取組について家庭と共有したいことを話し合う。

改善

◇ 成果と課題を、新たな取組へつなげましょう！

- 学校・家庭からの働きかけの成果を児童生徒や保護者に伝え、今後の働きかけの継続と信頼関係の構築に結び付けていく。

取組の工夫例

- * 保護者が参加した行事・諸活動の見直し……校長を中心に、教頭・教務主任・行事担当教員等を構成員とするプロジェクトチームを編成し、改善の方向性について家庭との共通理解を図る。

振り返り

◇ 「情報共有」・「行動連携」の取組について振り返りましょう！

- 児童生徒の言動や変容について保護者から意見・要望を吸い上げ、学校と家庭との協働による取組を検証し、成果と新たな協働への課題を明確にする。

取組の工夫例

- * 実態調査の効果的な活用……定期的に実施する学校アンケートや学校評価の中に家庭との協働に関する項目を入れ、結果を懇談会等で提示して話し合う。(学校での様子についての情報発信の仕方・内容、親子参加型の行事の在り方 等)



◇ 情報共有の充実を図り、行動連携を促進しましょう！

- 休み時間・給食の時間等での児童生徒のつぶやき等に耳を傾け、その内容や様子から心の状態を捉え、家庭連絡をするなど、児童生徒を中心にして双方向の情報共有を心掛ける。
- 客観的な事実とともに、よりよい成長への思いを加えた伝達を心がける。



取組の工夫例

- * 学校・家庭での姿・様子の伝え合い……学校と家庭の双方から、それぞれの生活の場で捉えた児童生徒の良さを情報提供し合う。(挨拶、言葉遣い、係・委員会活動、ボランティア活動、地域行事の様子 等)
- * 保護者へのありがとうメッセージ……児童生徒の頑張りとともに、保護者の支援に対して感謝の思いを伝える。(連絡ノート・学級通信・電話連絡 等)

情報共有

◇ 行動連携の充実を図り、児童生徒の支援効果を高めましょう！

- 「～してください」ではなく「一緒に～しましょう」という姿勢をもつ。
- 学校と家庭の良さや役割を生かし、同じ方向性をもって取り組む。

取組の工夫例

- * 行事記録での認め合い……児童生徒が仲間と協力して成し遂げた行事における取組をまとめた記録等に、担任と保護者から称賛の言葉を書き添える。(振り返りカード、壁新聞 等)
- * 親子で思いを共有する行事の設定……親子で参加するコンクール等の機会を設定する。(人権やいじめ撲滅を取り上げたポスター・作文・標語のコンクール 等)
- * 保護者主体の活動への協力・参加……保護者自らが企画・運営する行事・会合等に参加する。(PTA主催のスポーツ行事、児童生徒の健全育成に向けた会合 等)



行動連携

学校の良さ

- 仲間の考え方・価値観等に触れ、見方や考え方を広げる場。
- 良さを生かし、やればできるという達成感を味わう場。

学校の役割

- 集団生活のルールを身に付けさせ、思いやりや感謝の心を育てる。
- 仲間と関わる楽しさや活動の喜びを味わわせ、自己有用感を育む。

学校の教育方針

家庭の教育観

家庭の良さ

- 幼少期からの成長を理解し、ささいなことでも安心して話せる場。
- 子どもの思いを受け止め、その努力を認めて成長を後押しできる場。

家庭の役割

- 日常生活に必要なしつけを行い、集団生活を送るための基礎を培う。
- 手伝いなど家庭の役割を果たす中で、家族の中で自己有用感を育む。

学校と家庭のそれぞれの良さと役割を共通理解した上での信頼・協力関係の構築

問題行動等の未然防止に向けた学校と家庭との協働の在り方
～情報共有と行動連携による取組を通して～



Plan

小学校の実践

現状

◇自校児童の実態

- 明るく朗らかな児童が多い。
- △よりよい人間関係の在り方を学ぶ機会が少なくなっている。
 - ・自分にとっての損得を優先して、判断してしまう。
 - ・相手の気持ちを考えずに行動してしまう。
 - ・自分の思い通りにならないと他人を攻撃してしまう。

研究テーマ

思いやりの心を持ち、よりよい人間関係を築く児童の育成

～相互理解を深める交流活動や学校と家庭・地域との協働による取組を通して～

〈主な取組の柱〉

- ・児童同士が意見交流などの関わり合う場をつくり、互いの考えや思いを聞き合えるような指導方法の改善を図る。
- ・学校と家庭・地域が協働して児童の自己肯定感や自己有用感を高める活動を工夫する。

計画

◇道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫

- ・思いやりに関する項目「親切」「協力」「友情」に重点を置いた指導計画の立案
- ・意見を肯定的に受け止める、児童の主体的な取組を支える指導の工夫

◇思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って判断しようとする態度を育むための、相互理解を深める交流活動

- ・授業等における意見交流活動の充実及び自己評価、他者評価の設定
- ・異学年交流行事の実施

◇行事、交流活動ごとの振り返りシートや各種通信の活用

- ・交流活動における自己の目標の設定と活動後の振り返り
- ・学校と家庭の両方から児童の頑張りを認め、励ますコメントの記入
- ・児童の自己肯定感や自己有用感の高まりの把握及び改善点の洗い出しと検討

◇学校評価に「学校と家庭との協働」項目の新設

- ・「家庭・地域と情報の共有」等の設問の設定

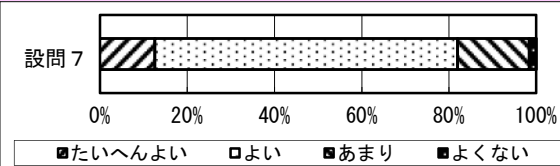


Check

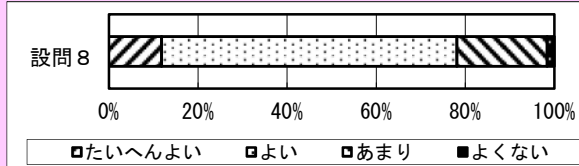
学校評価の項目に位置付け、外部の目でチェック、検証を受けています。

家庭・地域の学校評価等

設問7：家庭・地域と情報の共有



設問8：よさを認め合う家庭・地域との連携



- 1年間の学校の取組を振り返り、学校と家庭・地域との情報共有や行動連携が図られるようになったと実感できる保護者が増えてきた。
- 2学期に実施した学校評価アンケートの「学校の様子を保護者に分かりやすく伝えている」「子どものことに関する連絡や相談に適切に対応している」の回答が昨年度を上回る結果となり、学校の取組が保護者や地域の方に好意的に受け止められていることが分かった。

児童の変容



自分から話し掛けたり、声を掛けられたら答えたりして、仲良くなりました。今度は、自分だけでなく、みんなが楽しいと思うように自分から話し掛けていきたいです。
〈交流活動後の児童の感想〉

学校での子供の様子が分かるようになり、学校での出来事について親子で話をする機会が増えました。
〈保護者の声〉

教師や保護者からの振り返りシートの励ましにより、自信がもてる児童も増えました。学校と家庭・地域との情報共有は、児童に対する互いの思いを共有することにもつながり、良好な関係を築くことができました。
〈教師の声〉



Act

よりよい改善に向けて

- ◇各教科等の授業の改善
 - ・児童の道徳的価値を深めさせる指導の工夫・改善を行い、発達段階に応じた意見交流活動の充実を図る。
- ◇道徳的実践化を図る交流活動の充実
 - ・児童の参画による異学年交流活動の計画・立案をはじめ、年間計画と内容を検討し、充実を図る。
- ◇学校と家庭、双方向からの児童への働き掛けや情報共有の方法の工夫
 - ・振り返りシートや各種便りの効果的な活用の仕方を検討する。
 - ・学校と家庭・地域とのよりよい協働に向けた取組の一層の充実を図る。

Do

まずは学校から積極的に子供たちのよさを伝えることに取り組みました。双方向の情報共有となるよう取り組み方を工夫しました。

思いやりの心もち、よりよい人間関係を築く児童の育成 ～相互理解を深める交流活動や学校と家庭・地域との協働による取組を通して～

子供たちの取組を支援するため、情報共有により信頼関係を築き、学校と家庭が同じ方向性をもって関わることを意識しました。

情報共有

◇児童の様子を伝え合う場の設定

- ・学校での様子について家庭で話題に上がったことを連絡していただけるように学年通信で依頼する。
- ・集まった意見は、学校便りで紹介する。

「保護者の皆様の声をお聞かせ下さい」 1学期に行った授業や行事についてご家庭でも話題に上がっていることと思います。お子様から学校での話題を聞いて、保護者の皆様を感じた子どもの成長や活動についてのご感想など、お聞かせ頂けると幸いです。

----- 切り取り線 -----

【保護者の声】 年 組 児童名 () より

<「学年通信」で依頼するよさ>

- 「学年通信」で依頼することで、学校行事への意見だけではなく、学級（学年）の取組や担任に対する意見を書いてもらいやすい。
- 月1回の発行であれば、保護者の負担感を減らすことができる。

◇情報共有を図る場と伝える工夫

伝える場	伝える内容及び留意点
Web ページ	○児童の「思いやり」が感じられる場面や頑張りを認める記事を掲載することで、学校の取組に対する理解の促進を図る。
学校便り	○従来の学校便りの内容に加え、家庭や地域から寄せられた意見を積極的に発信する。学校が意見を発信したり、肯定的に受け止めたりすることで、保護者の自己有用感を高め、学校と家庭の積極的な協働につなげる。
学校評価	○「協働」に対する評価項目を作成し、家庭や地域からの意見を集約して公表することで、家庭や地域にフィードバックする。

2016年11月19日(土)

作品展 ふれあい鑑賞



今回の作品展では、異学年での「ふれあい鑑賞」を行いました。1・6年2・5年、3・4年のペア学年でお互いのよさを見つけ出して伝え合いました。

普段、保護者が目にする機会の少ない活動の記事を、できるだけこまめに更新しました。どの学年も記事がアップされていると、家庭や地域の関心が高まります。

【学校便りに掲載した意見の例】

「児童学校保健委員会に参加して」子どものストレスには、かなり気を付けているつもりですが、親の私がストレスを与えていることに気付き、気を付けようと思いました。最後のリラクゼーションも是非、家庭でもやってみたいです。まず、親から笑顔になれるよう、今日のことを参考にしたいと思います。

行動連携

◇基本的な生活習慣の定着を図るための「重点目標」の周知

- ・よりよい人間関係を築く基礎としての「基本的な生活習慣」の定着を図るため、家庭や地域において、学校と同一歩調で児童に指導してもらえるよう、重点目標を繰り返し家庭や地域に伝え、周知を図る。

周知を図るため、「あいさつ・返事・うた・掃除、時間厳守の〇〇っ子」のスローガンにして伝えました。



◇学校と家庭・地域が連携して取り組む活動を増やす

- ・学校と家庭、地域で例年取り組んでいる「親子奉仕活動」や「ふれあい運動会」に加え、保護者にも学んでもらう機会として「交通安全教室」「情報モラル出前授業」「児童学校保健委員会」への参加を呼び掛ける。

◇行事や交流活動の「振り返りシート」での認め合い・相互理解

- ・教師と保護者のそれぞれの立場から言葉を書き添え、児童のよさを認めていく。



1 学期のふれあい活動を振り返ろう

自分の〇〇がよかった	〇〇をもう少しがんばりたい
自分のふれあいがよかった理由は、どう走中のときは、やさしくしゃべると声が聞かれます。	あきらめな心をもちたい理由は、どう走中のときは、あきらめな心をもちたいから。

2 学期のふれあい活動の目標を考えよう

運動会をがんばりたい理由は、1年～6年がうまからです。

先生より

どの活動も、国・科の目標を達成し、話し合い、行動を促したことがあったね。みんなやと楽しい活動が、2学期も上手に声をかけあおう。

おうちの方より

あがり、楽しい時間を過ごして、他の学年の子と一緒に行動し、下の学年の子たちにやさしく声をかけられた事は、とても良いことだと思います。普段からこういう話し方を出来るように思います。もう少しがんばりたい事があきらめな心をもちたいと自分自身で思っているから心から声をかけようと思います。

- ・児童を介して、学校と家庭が、互いの思いを知り合う機会として捉える。

「振り返り」単に「反省」とせず、「よかったところ」や「がんばりたいところ」など、視点を示して振り返らせました。

「先生より」自己肯定感や自己有用感を高められるよう、その子なりの頑張りやよさを認めたり、思いやりのある行動について伝えたりしました。よさを伝えることは、児童を肯定的に捉えて成長を支える学校の姿勢を示すことでもあります。

「おうちの方より」保護者が何を望み、どのような見方をしているのかを学校が捉える機会です。懇談会等、保護者と連絡をとったり面談したりする場において、本シートの内容を話題にすることで、学校と家庭との良好な関係作りに生かしました。

問題行動等の未然防止に向けた学校と家庭との協働の在り方
～情報共有と行動連携による取組を通して～



Plan

中学校の実践

現状

◇自校生徒の実態

- 4年にわたり、生徒会が中心となって、いじめ0を目指した学校づくりに取り組んでいる。
- 生徒会活動を充実させ、互いに認め合う集団づくりを推進してきた結果、年を重ねるごとに、生徒の主体性が高まってきた。
- △生徒会役員と他の生徒との間に意識のずれが生じている。

研究テーマ

主体的に活動する生徒の育成

～生徒会を中心として、いじめ0の学校を目指す取組を通して～

<主な取組の柱>

- ・身近ないじめの問題に目を向け、いじめ0の学校を目指すことをテーマに、生徒会を中心として取組を計画・実践することで、主体的に活動する生徒の育成を図る。
- ・いじめの未然防止・早期対応に向けた学校と家庭・地域が協働する活動を工夫する。

計画

◇いじめ0の学校を目指す生徒会主催の取組の実施

- ・一年間を通じた、いじめ0の学校を目指すスローガンの策定
- ・前期生徒会、後期生徒会ごとの思いやりを育む活動の計画及び、実践
- ・取組内容について、家庭や地域に向けた生徒による情報の発信

◇いじめ0の学校を目指す学級活動の実施

- ・生徒一人一人に、自分自身の問題として考えさせる機会の設定

◇家庭や地域との協働を意識した取組の実施

- ・生徒のよさを共有したり、学校と家庭、地域が互いの考えを伝え合ったりするための取組の工夫

◇家庭での「いじめアンケート」の実施

- ・家庭においていじめについて話し合える機会とするとともに、保護者からの意見を吸い上げる機会として、「いじめアンケート」の家庭での実施

◇学校評価において、「学校と家庭との協働」に係る意見を集約

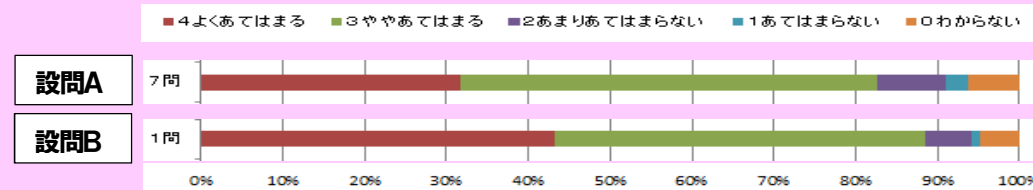
- ・「学校と家庭との協働」に関して意見を記入できる欄の設定

Check

学校評価の項目に位置付けるとともに、保護者や地域の思いを書いていただける「意見欄」の活用を図っています。

家庭・地域の学校評価等

設問A：お子さんには、相談できる仲の良い友達はいませんか。
設問B：学校は、部活動や生徒会活動に力を入れていると思いますか。



- 設問Aについては、8割の保護者が「よく当てはまる」「やや当てはまる」と肯定的に回答。多くの保護者が、相談できる仲の良い友達がいると感じている。仲の良い友達がいることで悩み事や相談事などを相談できる生徒が多い。
- 設問Bについては、9割近くの保護者が「よく当てはまる」「やや当てはまる」と肯定的に回答。多くの保護者が、部活動はもちろん、生徒会活動にも理解を示しており、生徒会活動の柱である「いじめ0の学校を目指す取組」についても、理解を示している。

生徒の変容



・いじめは、意外と自分に近いところにあると感じた。他人事だと思わず、日頃のささいなところから、相手の満足を意識したいです。
・「あたたかい」という言葉には、いろいろな思いが込められていると感じた。私も「あたたかい」行動ができる人になりたいです。
<生徒の声>

・学校便りや学級便りで、毎日の様子がとてもよく分かり読むことを楽しみにしています。子供と話すきっかけにもなっています。
・「学校が楽しい」と言っています。思春期の難しい時期に感謝です。
<保護者の声>



生徒会を中心としたさまざまな「いじめ0に向けた取組」によって、多くの生徒が、いじめをなくしたいと思える学校の雰囲気を作り上げることができました。
<教師の声>

Act

よりよい活動に向けて

- ◇ 積極的な発信
 - ・ 生徒会の取組について、家庭や地域への発信をさらに積極的に行う。
- ◇ 家庭・地域との連携
 - ・ 家庭や地域と手を取り合っ取組を行うことが希薄であったため、今後は、一層の充実を図っていく。



